

第4分科会 人権教育

共催 白山市 白山市教育委員会

会場 白山市松任文化会館 ピーノ

日程 13:00 ~ 受付
13:30 ~ 13:50 開会行事
13:50 ~ 14:50 基調講演
14:50 ~ 15:05 実践発表
15:05 ~ 15:20 休憩
15:20 ~ 16:35 パネルディスカッション
16:35 ~ 16:45 閉会行事
16:45 終了



白山航空撮影 ©石川県観光連盟

祝 辞



白山市長

田村 敏和

このたび、第73回日本PTA全国研究大会石川大会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げますとともに、全国各地から白山市にお越しになられる皆様を、市民を代表して心より歓迎いたします。

本研究大会のテーマである「サステナブルな未来づくりのために～創造と協働を 石川から～」には、今、私たちが直面している課題と、それに立ち向かっていく決意が込められていると存じます。

石川県は能登半島地震や奥能登豪雨といった自然の脅威に見舞われ、私たちも大きな試練に直面いたしました。その中で、本市では、発災直後から関係機関と連携し、避難所の開設と運営、救援物資の運送、被災地の中学生の受け入れなど、多くの市民の皆様のご支援をいただきながら、支援活動に力を尽くしてまいりました。このような支え合いの気持ちこそが、困難を乗り越え、持続可能な未来を切り拓く源となることを改めて実感したところであります。

このような中、本市は今年市制施行20周年を迎えました。日本三名山である霊峰白山、その白山を源とする手取川の清らかな水、豊かな農産物を育む肥沃な扇状地、そして、日本海にいたる豊かで美しい自然環境、地域に根付いた歴史や伝統文化、その営みなど、本市が有する類まれな魅力が高く評価され、市域全体が白山手取川ジオパークとして、ユネスコ世界ジオパークに認定されております。

本市では、このジオパークの資源を教育にも積極的に活かし、子どもたちの主体性や探究心を育む“白山ジオ学習”を進めており、教室の中だけでなく、地域そのものを学びの場とすることで、ふるさと白山に愛着と誇りを持ち、持続可能なよりよいまちづくりの担い手となる、豊かな感性と健やかな体を備えた人材の育成を目指しております。今大会を機会に、市外からお越しになられる皆様におかれましては、本市の豊かな自然や文化、歴史に触れていただき、新たに生まれるつながりとともに、皆様の思い出に残る大会となりましたら幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、ご尽力、ご支援いただきました関係の皆様にご心より敬意を表しますとともに、大会にご参加の皆様のご健勝並びにご活躍を祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

研究課題

多様性の社会 子供の個性を活かす時代へ

～ ジェンダー教育について知っておきたいこと ～

現状と課題

昨今「ダイバシティ＝多様性」尊重の機運が社会全体に広がりつつあります。しかし、依然として「男の子は男らしく、女の子は女らしく」といったジェンダーステレオタイプは社会に根強く残っていて、「ジェンダー」や「多様性」という言葉を無意識に避けているという大人も多いのではないのでしょうか。

子どもが健全に成長し、安全で互いを尊重できる人間関係を築くとともに、性に関する誤解やリスクを避けるためには、包括的性教育が重要とされていますが、私たち大人世代にはまだ十分に浸透していないとも感じます。

私たち大人も子どもとともに多様性を学び、社会全体でウェルビーイングな未来を築くための一歩としましょう。

討議の視点

- ① 多様性と「ジェンダー」「性」の問題
- ② 「性」に悩む保護者と子どもに対する支援
- ③ 家庭内での「ジェンダー」の尊重

提言者

- 基調講演者 高井 ゆと里 氏 群馬大学情報学部准教授
東京大学人文社会系研究科死生学応用倫理研究室研究員 兼任
- コーディネーター 山本 恵史 氏 元白山市PTA連合会会長
- パネリスト 高井 ゆと里 氏 基調講演者
植田 幸代 氏 実践発表者
松本 ハル 氏 青森レインボーパレード実行委員
松岡 成子 氏 特定非営利活動法人「ASTA」共同代表理事

実践発表

- 植田 幸代 氏 菜の花助産院院長・助産師・公認心理師
「助産師として見えてきたジェンダー課題
～ジェンダー感覚をはぐくむ原点とは～」

基調講演 「多様性は『ある』けど『ない』:ジェンダー平等と子どもたち」

パネリストとしてもご参加いただきます



高井 ゆと里 氏

経 歴 :

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学（2019年）。
国立がん研究センター特任研究員、石川県立看護大学講師、
群馬大学准教授
東京大学人文社会系研究科死生学応用倫理研究室研究員 兼任。

個人的なことですがかつて2021年度の1年間だけ、石川県立看護大学（かほく市）に勤めていました。コロナ禍まっただなかで、あまり県内を知ることなく異動してしまったのですが、当時の同僚の方々とは退任後も親しくさせていただいており、こうして石川県のみなさんにお招きいただいたことを嬉しく思います。ジェンダーやLGBTQに関わるテーマを「人権」の問題として分科会に位置づけた主催のみなさまの期待に応えられるように頑張ります。

講演要旨 :

「ジェンダー」や「多様性」について、知らなければならないという雰囲気は社会的に醸成されてきている。しかし、そうした概念によってどのような認識が生まれ、どのような現状変更が求められているのか明晰に説明できるという人は少ないだろう。そして依然として問題なのは、ジェンダー平等や性の多様性をめぐる問題が、すべての人の人権にかかわる問題であるという認識がまだまだ定着していないということだ。

この講演・そして分科会では、ジェンダー平等そして性の多様性の問題を参加者が人権の問題として理解できるようになることを目指す。それに際し、講演題は「多様性は『ある』けど『ない』：ジェンダー平等と子どもたち」とした。

多様性という価値は、一方では目指すべき理念として認識されている。多様性のある社会（あるいは学校）を作るべきなのだ。しかし、多様性はすでに「ある」。「女であればこう」や「男であればこう」といった型にはまらない生き方を歩み始め、歩み続ける子どもたちは確かに存在しているし、そのなかには、異性だけを好きになるわけではない子どもや、生まれたときの性別とは異なる性別の未来を自分のものとしていく子どももいる。問題はだから、そうした「ある」はずの多様性を「ないもの」にしている画一的な社会の性規範であり、制度であり、法律である。

それゆえ本講演では最初に、ほんらい「ある」はずなのに「ない」ことにされている子どもたち（そして大人たち）の多様性を再確認することから始める。次に、それを「ないもの」にすることで学ぶ権利や働く権利、安全に育つ権利を奪われている人々がいること、意識の面のみならず制度や法律の面から考える。最後に、そうした「画一性と排除」を生み出す仕組みを変えるために、つまりはすべての人の人権が守られる社会を作っていくために何が必要なのか、パネリストや参加者とともを考えるためのいくつかの視座と提案を示したい。

コーディネーター



山本 恵史 氏

経 歴 :

2017～2018 白山市千代野小学校PTA 会長

2019 白山市PTA連合会 運営幹事

2020～2022 白山市PTA連合会 会長

私自身、PTA活動を通して、知らず知らずのうちに「男だから」「女だから」といった思い込みで子どもや周囲と関わっていたことに気づかされました。その経験から、子どもたちに正しいジェンダー観を育むためには、まず私たち大人、特に親世代が学び直すことが欠かせないと痛感しています。

当日はコーディネーターとして、さまざまな立場からのご意見が交わされるよう心がけながら、参加者の皆さんとともに、気づきや問いを共有し合える時間になればうれしいです。

パネリスト 実践発表者



植田 幸代 氏

経 歴 :

助産師・公認心理師

菜の花助産院 院長

金沢レインボープライド 理事

妊産婦や赤ちゃんの支援の傍ら、28年前から近郊の小中学校を中心に、いのちの健康講座を担当。現在は年間約50回の性教育やLGBTQ+の講座を学校や自治体等で行っています。

近年、LGBTQ+当事者やご家族の相談を受けることも多くなり、5年前に一般社団法人金沢レインボープライドの理事として、相談事業やLGBTQ+のお子さんを持つ保護者会を運営しています。

分科会では、経験をふまえ、お話させていただきます。

パネリスト



松本 ハル 氏

青森県レインボーパレード実行委員



松岡 成子 氏

経 歴 :

特定非営利活動法人ASTA共同代表 2017年設立
愛知県、岐阜県を中心に、学校、行政にLGBTQ+出張
授業を展開

2025年3月末現在 LGBTQ+出張授業回数約900回
累計参加者人数約10万人

ユースの交流の場「名古屋あおぞら部」（英語・手話あり）や 保護者向けの「みんなで保護者会」をオンラインで、2021年より毎月開催しています。毎回約20名ほどの保護者が国内、国外から参加されています。LAの保護者とも交流しています。

参加していただく保護者の皆様へ、わかりやすくお伝えできればと思います。